

「令和3年度第1回 松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり

懇話会」議事録

□ 開催日時

令和3年8月6日(金) 10時00分から12時00分

□ 開催場所

徴古館 2階多目的ホール(佐賀市松原二丁目5番22号)

□ 出席した者の氏名

【委員】

座長 牛島 英人 【一般社団法人佐賀市観光協会 会長】

佐野 安正 【佐嘉神社 宮司】

重松 恵梨子【映画館 シアター・シエマ 支配人】

白井 誠 【佐賀市 副市長】

田中 裕之 【佐賀県文化・スポーツ交流局 局長】

(代理 佐賀県文化課 参事 中島 清孝)

中尾 清一郎【佐賀鍋島伝承遺産顕彰会 代表世話人】

中尾 友香梨【国立大学法人佐賀大学 全学教育機構 教授】

鍋島 直晶 【公益財団法人鍋島報効会 理事長】

元村 直実 【佐賀県総務部 部長】

(代理 佐賀県資産活用課 課長 馬場 富久)

【事務局】

企画調整部 部長 大串 賢一

企画調整部副部長兼歴史・世界遺産課課長 村上 正

歴史・世界遺産課副課長兼歴史政策係長 野田 宣心

歴史・世界遺産課 歴史政策係 江藤 健二

【随行者】

公益財団法人鍋島報効会 常務理事 松村 健

事務局長 富田 紘次

佐嘉神社 禰宜 藤田 俊介

佐賀県資産活用課 庁舎管理担当係長 成平 猛

佐賀県文化課 島村主査

佐賀市企画政策課 星下課長

【次 第】

1 開会

●事務局

今回の懇話会設置に至りました経緯、目的などにつきまして説明いたします。

公益財団法人鍋島報効会と佐賀市との間では、お互いに連携協力をしながら、様々な事業に取り組むことを盛り込んだまちづくりに関する基本協定を締結しております。佐賀鍋島藩の貴重な史料、文化財を後世に伝え、広く佐賀への愛着や誇りを醸成することで、地域づくりに貢献するため、有志の方々により佐賀鍋島伝承遺産顕彰会が立ちあげられました。昨年11月には顕彰会の主催で、鍋島文化を活かした佐賀のまちづくりを語る会が開かれ、鍋島報効会の鍋島理事長、山口県知事、秀島市長、顕彰会松尾会長により歴史や伝統を活かしたまちづくり等についての意見交換がなされたところです。進行を顕彰会の中尾代表世話人が務められ佐嘉神社の佐野宮司も参加されておりました。このようなことを背景といたしまして、またこれまで関係者が一堂に会して意見交換を行うという機会もなかったと思いますので、そういった意味でも、資料1、懇話会協議のイメージにありますように、松原公園周辺のまちづくりに関しまして、様々な観点から意見交換や情報の共有を行い、松原公園周辺の将来像として取りまとめることを目的にこの懇話会を設置することといたしました。この懇話会の前段階として、鍋島報効会、佐嘉神社、それから佐賀県から参加をいただきまして、2回準備会を開催し、準備を進めてきたところでございます。

2 辞令交付

3 あいさつ

佐賀市企画調整部部长 大串 賢一

4 委員紹介

●事務局

懇話会座長についてでございます。この懇話会では委員の皆様に活発な意見交換をお願いしたいと考えておりますが、様々なご意見を引き出しながらスムーズに会議進行していただくため、座長をおくこととしております。事務局といたしましては、委員の皆様のうち佐賀市観光協会会長の牛島委員に座長をお願いしたいと考えております。牛島さんは様々な役職を兼務され、本日のような会議にも数多く参画をされております。また、まちづくりの重要な要素となります観光面につきましても豊かな見識をお持ちであることから、懇話会の座長として適任と考えた次第でございます。委員の皆様いかがでしょうか。

≪異議なし≫

それでは、懇話会座長は牛島委員にお願いしたいと思います。牛島委員からご挨拶をお願いいたします。

●牛島座長

皆さんおはようございます。ただいまご紹介いただきました牛島と申します。懇話会ということで、皆様方の様々な意見をお聞かせいただけたらと思って楽しみに参りました。先ほど座長ということでご指名いただきまして、立派な方、日ごろからお世話になっている先輩方がいらっしやる中で正直ためらいはありますが、できる限り務めていきたいと思っておりますのでぜひとも皆様の協力をよろしくをお願いいたします。

5 情報提供

(1) 公益財団法人鍋島報効会

●鍋島報効会 富田氏

情報提供という形で、鍋島報効会の史料から松原公園周辺の歴史について、資料 4 に沿って概ね話を進めさせていただきたいと思いますが、正面のスクリーンをご覧ください。佐賀というまちが江戸時代どんな形で作られていたのかの概要を紹介させていただきたいと思っております。

この絵図は初代藩主勝茂公の時代に製作されまして初期のまちの形を表した絵図で、ほぼ正方形のお堀が正面にございます。お堀の中には本丸、二の丸、現在の博物館がある三の丸といった形でこの辺りが中心地で、他のこういった区画は重臣の屋敷が並んでおります。お堀の外が城下町でございますが、お堀の外側を見ていきますと、例えば今、皆さんがお集まりいただいた徴古館周辺の堀端のところは、横向きに侍居屋敷と書いてあるのが武家屋敷街であることを表しています。その上に、緑の横長の帯状のものが広がっているところは、樹木が植わっている表現がなされておまして、別の絵図でこれをご覧くださいと、松を中心としまして、いろんな花をつけた樹木が植わっている様子が描かれておまして、これが現在の松原の語源となっている所以です。どうしてこういった場所に松原、緑の樹木が植えられていたのかの理由については定かではないですけれど、オレンジで塗られたところが、白山町、呉服町といった町人地。江戸時代、この長崎街道は町人地の中を折れ曲がりながら城下町の中を貫いておまして、いろんな人たちが往来します。そういったときに、この街道沿いから南のお堀方面が見通されないよう、こうした樹木の帯を設けたとも言われておりますが、いずれにしても江戸の初めから終わりまでほぼ開発されることなく松原の帯状の帯が 260 年間続きました。

その中でも、江戸時代に緑の帯が開発されましたのが江戸時代の後期になりまして、8代藩主の時代に藩祖直茂公を祀るための日峯社、現在の松原神社が、この帯状の東の端部分に創建をされるという形でこの辺りの開発があります。明治になるとどうなっていくかと

というのが、この道路を赤で書いたこちらが明治19年の様子を表したものです。帯状の部分の一番東の上には松原社がありまして、南側には神社に付属する神苑が出来ております。西にいきますと、協和館、縣會堂、幼稚園、勸興小学校といった、教育機関や、役所の関係が並んでいます。さらに西に行きますと現在もですが警察本部が堀端に建っている。現在と違いますのが、この時代は県庁がこの並びにあった。お堀をまたいで南側城内側を見ていただきますと、文字が逆さですけども、県庁新築御用地と書いてありまして、やがてここに県庁が移転する、現在の場所に移るという予定が書かれた明治19年段階の絵図です。松原周辺はお社があったり、教育機関、官公庁があって一部の史料によるとこの一帯の呼び方を佐賀丸の内とよんだ史料もあります。

この辺りの趣が少し変わってくるのが明治の終わりの頃のことで、この時の絵図がこちら(2ページ下)のものです。L字状になっております松原川の形は現在も昔も変わっておりません。一番右上のところに松原社がございましてその南側に大きな胃袋状をした池が特徴的な神苑が広がっているというのは先ほどと一緒にですけども、西側を見ていくと、黄色は建物を表現していますが、物産陳列場があったり、黄色の廊下で繋がれた西側が佐賀市役所、その西側に勸興小学校がある状況。ここに大正2年、直正公の銅像が造られたことに伴って、物産陳列所や市役所が移転して、銅像園として一帯が整備されるというのが明治の終り頃で、落成したのが大正2年のこと。直正公銅像は、県内外の皆様の寄附によって建ていただきましたので、それに対する御礼の意味合いで、直正公の息子にあたる直大公が県内で最初の公共図書館をお建てになるということで、同じ大正2年に佐賀図書館が落成しています。銅像が建って間もない頃、まだ植えられた樹木がそんなに高くなっていない時期の写真がこちら(4ページ)です。大きな台座と銅像を合わせて10m近くに及ぶような像。南側のお堀を向いて当時建っていたようです。この左奥に見えます四角いボックス状の建物が佐賀図書館。銅像園の中で銅像と図書館がセットで造られていて、一般の県民の皆さんに開放されたということで、この辺りが文教地区のような性格を帯びていきます。大正2年の後の様子もこの図面に落とし込んでおりますけれども、銅像の南側に、大正12年には現在もあります弘道館の記念碑が建って、昭和2年には佐賀県内で最初の博物館となります徴古館が創建。昭和8年に佐嘉神社が、もともと松原神社の神苑があった部分の一部を含めるこの位置に、直正公を祀る神社として創建されました。大正2年から昭和初期にかけて10年から20年ぐらいの短い間で、佐賀の文教地区のような形で整備が進んでいきました。佐嘉神社が創建されて間もないころにこのエリアを南側から写した写真が残されているのがこちら(3ページ下)。手前のほうが北堀で松が植わっている様子があり、そこに沿って貫通道路がある。西のほうから拡大してご覧いただきますと、ここに弘道館記念碑が現在と同じ形であり、徴古館。今、皆さんはこの辺りにいらっしゃるということになりまして、後ろに見えております屋根が佐賀図書館ですので、図書館と博物館が隣り合わせで建っていたという位置関係が分かります。東側は茂みの中に銅像園の中心である直正公の銅像が白い台座の上にそびえているという様子が写されています。さらに東側には、昭和8年に創建さ

れたばかりの佐嘉神社。右奥に屋根が見えているのが松原神社の社。今とほぼ近い景観ですが、けれども現在と違うのは、貫通道路の交通量、たった車一台というような時代です。こうやって大正から昭和にこの一帯が整備された様子を見る事が出来る写真です。

ご紹介をさせていただいた江戸からのざっとした流れを、もう一度整理をさせていただきたいと思います。松原川に囲まれた緑の帯が松原。ここが江戸の後期に日峯社、松原神社が創建される。明治になると南側に神苑が出来る。西側は官庁街。大正2年、直正公の銅像を中心とした銅像園が整備され、同時に佐賀図書館が建てられる。大正12年に記念碑。昭和2年に徴古館、昭和8年に佐嘉神社が創建される流れです。

この後、戦中戦後の動きはご承知のとおり、直正公の銅像は戦時中に金属供出のためなくなり、徴古館も戦時中に閉館を余儀なくされました。佐賀図書館はその後も残りますが、昭和38年に現在の城内に新築移転し、松原にあった銅像、図書館、徴古館も閉館しました。城内はその後昭和45年に明治百年事業として県立博物館が創建され、昭和58年には県立美術館、平成16年に本丸歴史館、城内に文化施設がどんどん松原地区から移っているのが戦後の流れ。

一方で松原の様子は、松原川の景観、先ほど大串部長からもございました楠の木とマッチした景観を含めた整備が完了したのが平成3年。徴古館が再開したのが平成10年。徴古館周辺を佐賀市に整備していただいたのが、平成23年。平成28年には北側にバルーンミュージアムがオープンするという形で、新たな動きが松原でも出てくる。さらには、もともと武家屋敷街があったエリアから北東側、町人地だったところの柳町が景観形成地区に指定されたのが平成11年。柳町と松原を結ぶ佐賀城下ひなまつりがスタートしたのはその2年後の平成13年です。

城内というエリア、武家地だった松原、町人地だった柳町、その辺りを、歴史文化をキーワードに、あるいはひな祭りという伝統行事を核にしながらつなげていくという取組が平成10年代以降続いて現在に至るという流れで、こういった中でこの辺りの江戸から平成に至る変遷が、これから令和のまちづくりを考える上で何か役に立てるのであればと思います。神社や徴古館といったものは、昭和の頭の様子をほぼそのまま留めて見える形で、この辺りの松原周辺の土地を形成していますけれど、一方で、かつてここにありました銅像と図書館は無くなっており、銅像は幸いに、平成29年に城内に再建していただきましたけれども、図書館がここにあったということは、今は形跡がほぼ現地には残されていません。建物が城内に移転して、図書館という公共図書館の機能が移転することはあっても、もともとここが佐賀県にとって県民の皆さんにとって最初の図書館があったという、その土地固有の歴史性までは城内に移転することはできません。やはりこの土地に染みついた歴史性がございまして、そういった今は目に見えないけれど、かつて銅像や図書館も含めてこの一帯が歴史文化の中心であったということ、それが一つの特徴だろうと思っております。これからの皆様の検討において、この資料がお役に立てれば幸いです。

(2) 佐賀市

●佐賀市歴史・世界遺産課 野田

資料の1ページには、佐賀市の計画・構想における位置付けということで触れておきたいと思います。左側は平成23年に策定した、街なか再生計画における4核構想をあらわしたものです。中心市街地の佐賀玉屋、エスプラッツ、歴史的な建物が残る柳町周辺とともに、佐嘉神社・徴古館を街なかの賑わい再生の四つの拠点、4核の一つとして位置づけております。次に右側、佐賀駅周辺整備構想、これにおきましては、松原周辺を城内地区を含む歴史・文化・芸術の拠点エリア、下の青い点線囲みの部分ですが、この一角として位置づけています。年間延べ1,000万人を超える利用者がおりますJRの佐賀駅やバスセンター、こういった佐賀駅周辺を中心に町の南北の軸を強化して、人の流れ賑わいの波及効果を生み出すということとしております。

次に2ページ松原公園の整備計画になります。左側は松原公園の全体構想として、今から10年ほど前に作成をしました構想図になります。この構想図ですけれども、当時、特に関係者の方々と協議の上で作成したというものではございませんで、実際には鍋島報効会から土地をお借りして、赤線で囲んだ部分、大体3,700平方メートルほどございますけど、ここを第1期として平成22年度に整備をいたしております。

一方で、黄色い線で囲まれた残りの部分、これが約1万平方メートル程ございますが、将来整備エリアとしておりました。右側の現在の図にもありますように、それぞれ、鍋島報効会、佐嘉神社、佐賀県の所有地となっております、営業中の店舗もまだ幾つか残っている状況になっています。前回の整備構想からは10年以上が経過をしておりますので、この懇話会でゼロベースから議論をしていただければと考えております。

次に3ページ、新馬場通り（松原神社の参道）の整備になります。松原神社から東のほうへ現在の大財通りまで、150mほどの新馬場通り、かつて松原神社の参道として、大変賑わいを見せていたところですよ。通りの東のほうから「木の鳥居」「銅の鳥居」「石の鳥居」が立ち並んで脇参道には灯籠も建てられていたようですが、現在は残念ながら、当時の面影はほとんど残っておりません。この辺りは以前から市民団体によりまして、この参道の復活を目指したまちづくりというものが進められております。また鍋島報効会でも通りの両側の建物等の整備基準を定められるといったような動きも出てきております。佐賀市としてはこういった動きと連携しまして、現在参道の質を高める高質化事業に着手をしているところです。具体的には右下、計画横断図のように現在の市道の両側からそれぞれ、1.7mほど車道部分を狭くしまして、その外側の鍋島報効会の土地ですけれども、これとあわせて、幅3mの脇参道とするとともに、道路の美装化を行うことにしております。

次に4ページ。中央大通りの活性化に向けた取組をご紹介します。先ほども少し触れましたけれども、佐賀市の玄関口である佐賀駅を中核としまして、北のスポーツ・文化の活動拠点エリア、今SAGAサンライズパークが整備中ですが、この周辺と城内地区や松原周辺といった南の歴史・文化・芸術の拠点エリア。これをつなぐ町の南北軸、北は市道の

三溝線佐賀商業の校門前を通る道、南は中央大通りになりますけれども、この南北軸の機能を強化し、ここを歩いてもらうことで、賑わいをつくり出して、駅周辺からの人の流れを生み出すということにしております。このうち中央大通りの賑わい創出に向けましては、本市の経済部のほうで中央大通り再生会議を立ち上げておりまして、中央大通り沿線エリアの将来像、土地利用方針、こういったものを導き出すということとしております。

5 ページでは先頃開かれました再生会議で示された将来像と土地利用方針の試案になります。土地利用方針の試案によりまして、中央大通りを大きく三つにエリア分けをしております。特に今回の松原エリア周辺と関連する部分としては、右側エリアの緑色の部分になるかと思っております。市民や来街者の交流、城内松原エリアとの一体感、佐賀の歴史・文化を受け継ぐ人材育成、こういった方針が示されていますので、中央大通りの取組とともに連携を図りながら進めていきたいと考えております。

(3) 佐賀県

●県資産活用課 馬場課長（元村委員 代理）

資料 6-1 をご覧いただければと思います。くすかぜ広場再整備ということで紹介させていただきたいと思っております。県では県庁北側、NHKの移転工事があっている西側、県警本部東側の広場再整備ということで事業を展開しているところです。かつて弘道館があったところで、その後佐賀市役所があったりしています。佐賀国体の時には仮庁舎として利用しており、平成4年に現在の広場として整備を行ったところです。当時は噴水があったり、ステージがあったり賑わっていたけれど時が経つにつれて植物が生い茂り入りにくくなって、利用者が減少していきました。

一方で、県庁前の国道で、商店街と城内エリアの結束点ということで重要な場所になります。県としては、県庁周辺や城内周辺を歩いて憩う・集う、歩くきっかけ、歩く楽しさの拠点になるような、また、情報発信するような場所として、改めて再整備することを昨年決定したところです。

今の状況は噴水や樹木がたくさん生えていましたけれど、整地を行って、解体工事が終了している状況です。くすかぜ広場には建物を含めて整備するようにしており、今は建築設計の詰めを行っているところです。再整備のイメージは資料 6-1 をご覧ください。南東方向から見たイメージになります。2枚目、建物がありますが北側から南に向かって見るイメージパースになります。6-1 のパースで説明しますと、中央は、皆さんが憩えるような芝生の広場という形で整備を行い、県警側に建物を配置して大きな屋根で日陰を作って県民の皆さんが憩えるような形にしております。施設内では休憩や交流ができるよう運営を民間事業者の方をお願いして食事や、色んなイベントを行っていただきながら、人が集うことを考えていきたいと思っています。展示スペースを設けて、歩きに関連するような商品等を展示、レンタサイクル等やりながら集まっていただく仕掛けをしたいと思っております。今後も整備にあたっては、松原公園・城内エリアの人の流れを意識しながら進めていきたいと考えており、

松原公園の整備との連携も図っていかねたらと考えているところだす。

●県文化課 中島参事（田中委員 代理）

市村記念体育館の利活用について資料 6-2 をご覧ください。市村記念体育館は昭和 38 年に、リコー創設者の市村清氏から寄贈をいただいたということで現在に至っております。平成 30 年に、肥前さが幕末維新博覧会で活用した施設です。県の取組の構想として、佐賀駅の北と南ということで、佐賀駅から北に 1.5 km の S A G A サンライズパークを中心にスポーツゾーンということで整備を進めています。南は城内公園周辺を文化ゾーンと位置づけ整備を進めているところだす。

3 ページ目は文化ゾーンの全体のエリアデザインです。これから市村記念体育館の整備が動き出す予定ですが、今後 5 年以内に整備を進めていくことになるかと思ひます。県立図書館については 2017 年にフリースペースの改修が終了し、2022 年に屋上屋根の補修が予定されています。県立図書館前のころごしのもりについては 2017 年に整備が終わっています。県庁舎についても SAGA CHIKA の改修、北側駐車場の整備など行ったところだす。県立博物館も 2017 年に広場の改修をしております。

文化ゾーンを機能面から説明すると、「支える」「知る」「体験する・創造する」「憩う・活動する」「観る・知る」というゾーンの区分けをしています。市村記念体育館に関しては、文化体験・創造の拠点として位置づけ、整備を検討しているところだす。また、博物館・美術館は芸術の拠点として、佐賀城本丸歴史館は歴史の拠点として、県庁舎は政策の拠点として位置づけ、エリア全体の整備を進めていきたいと考ひています。

市村記念体育館の目指す姿として、今後はスポーツ施設としての使用はしないと決めているので、文化施設ということで検討しています。その中で、佐賀の未来をつくる文化体験・創造拠点ということで大きくコンセプトを作り、現在整備を進めているところだす。市村記念体育館の整備をしたら、多くの方に活用いただけるような施設にしていきたいと思ひておひまして、県民だけではなく、観光客・クリエイター・学生にも集まっていただいて、クリエイターと学生が融合して新たな化学反応が起きたり、県民の方にも来ていただいて日々楽しんでいただけるような様々な体験ができるような施設にしていきたいと思ひております。市村記念体育館の利活用については以上ですが、参考までに佐賀城下再生百年構想ということで資料 6-2 をつけています。佐賀城下再生百年構想自体は県の都市計画部署が担っており、平成 19 年 3 月に佐賀城下再生百年構想策定会議により構想が策定されているもので、城内周辺の賑わい創出のために百年構想が現在も検討されているところだす。この資料については後ほどご覧いただければと思ひます。以上です。

●牛島座長

ご説明ありがとうございます。ただいま鍋島報効会、佐賀市、佐賀県から説明いただいたところだす。ここで皆様から何か質問等ありましたらお願いしたいと思ひます。質問の際に

は、挙手の上、マイクを使ってお願いしたいと思います。

●中尾清一郎委員

今までの流れは承知しておりますけれどもこだわりがあって、バルーンミュージアムをあ
の場所に、あのタイミングで造ったのはまずかったのではないかとずっと思っていますが、
その時にこの歴史・文化ゾーンにバルーンミュージアムをあの場所に造ることについて、議
論はなかったのでしょうか。

●事務局

当時関係する部署には在籍していなかったものですから詳しいことはわかりませんが、
松原というその土地の性質、歴史とか文化とかそういったところの施設としてふさわしい
かどうかという議論が、当時どこまであったかということはこの場で皆様方にお示しす
ることは持ち合わせておりませんので、恐れ入りますが持ち帰って、少し当時の状況等を調べ
させてもらって、また皆様方にお知らせしたいというふうに考えております。

●中尾清一郎委員

すみません。お答えしにくいことをお尋ねしましたけれど、要するに、その時にこういう構
想が既に県も市もお持ちの中で、バルーンミュージアムというどちらかというところと近未来的
な、今日的な施設をつくることの整合性について矛盾していると思う。その議論がなかった
かどうか知っておきたかったのでお尋ねしました。

●牛島座長

ほかに何かご質問等ありませんでしょうか。

●白井委員

私も正直、バルーンミュージアム設置に係る当時のいきさつは存じていないわけですが
けれど、今日的課題としては、佐賀市の南北軸の整備の話などがいろいろと議論されつつあり
ます。一つは、北にアリーナを建設するというところで新しい流れが出来つつある。もう一つ
は、南の方に中央大通りがある、これまでも様々な振興策が議論されてきましたが、最近
の新しい課題としては、中央大通りが地震の際の避難路に指定されたということで、沿線の
大きな建物は耐震診断をして、倒壊する恐れがあるかどうかを調べなければならなくな
りました。補強するか造りなおすかということを将来判断しなければならなくなり、その結果、
近年、補助金を使いながら取り壊されている建物が増えてきたということがあります。通り
そのものがここ数年で大きく様変わりしようとしている中で、改めて、これは再生のチャン
スなので、共にまちづくりについて検討していきたいということで昨年中央大通り再生会
議が立ち上がりました。このように、再生についても最近の話であり、佐賀市として当時、

ここまでしっかりとした南北軸の構想があったかという点、必ずしもそうではなかったのではないかと考えています。もちろん詳しいことは事務局からの調査、回答を待ってもらえればと思います。

一方、県においても、アリーナ構想が出て来たのが5年くらい前の話であり、さらに時期を同じくして「明治150年の事業をやろう」ということで城内周辺エリアを特に県民の心のふるさとというイメージとして位置づけるようになったのは最近のことであり、ここ数年の話だと思っていまして、県にしても市にしても、新しくこの南に向かうエリア一帯を歴史的に再整備していくことが大事だと意識し始めたのは5～6年前から、すなわちバルーンミュージアム建設の話はその前の検討となると思っています。このエリアは今日において市も県も同じようなタイミングと意識で見直しを始めようとしていると言えると思っています。

●牛島座長

ありがとうございました。

冒頭に鍋島報効会から、松原のこれまでの流れを説明いただいて、なるほどと思ったところです。今、白井委員から佐賀の南北軸というふうなところで数年来の動きもまた一つの流れということで、そういったことも踏まえながら、今後考えていくことになろうかと思えます。ほかないでしょうか。なさそうですので、前半を一旦終了したいと思います。

6 意見交換

●牛島座長

皆様がこの松原エリアについて日頃から感じてらっしゃることだとか、こんなふうになったらいいなとかを自然にお話いただければと思っていますところでは。

最初に事務局に確認しておきたいと思いますが、今回の懇話会のタイトル「松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会」ということで、これはどのような公園をつくりましょうとかそういったことではないと理解をしておりますが、よろしいでしょうか。

●事務局

はい。松原公園ピンポイントでどうするか、という議論ではない。話題の中心は松原公園になるかもしれないけれど、そこだけに絞ってということではございません。

●牛島座長

これからどのような空間に、というふうなところで意見をいただければと思います。限られた時間になりますが、皆さん一人一人にご意見をいただきたいと思っています。

トップバッターとして、公益財団法人鍋島報効会の理事長、鍋島委員さんからご意見等お

願いたします。

●鍋島委員

私自身は、徴古館のことに関わって30年くらいになります。私自身はどうしたい、こうしたいという意見はあまりないですけど、色んな意見をいただいて参りました。そういう中で博物館法とかも勉強しながら関わってきたつもりですけど、そういった中で県・市との関係、たまたまひな祭りのようなものがあるって、徴古館ってどんなところにあるのか？先ほどの中尾委員（顕彰会）の話にもありましたけれど、そういう中で昔の図面が出てきてみたり、徴古館の学芸員が、「松原と言うけれど松は生えてないですね」佐嘉神社の社務所の前に2、3本立派な松があるけれど、「松どこにいったのだろう」という素朴な疑問から、ある時、ここを訪れられた方が戦後引上げた後、多くの方が居を構えるというほどでもないと思うが、松原を開墾したのが私ですという方がおられた。好奇心を持ちながら、ここにある情報を活用していただいて少しずつ皆さんに知っていただく努力は少ししてきたつもりです。そういう中で色んな目線で見させていただいているけれど、ひな祭りをやっている時に柳町から佐嘉神社を経て徴古館、お堀を越えてお城に行く動線が見える。何かあるのかな、と少しずつ感じながら皆さんとお話をさせていただいて、これからどうなっていくのか、どうなったらいいのか、どうなったらまちのためになるのか、そのために徴古館みたいなものは、我々含めてですけど居たほうがいいのか、あったほうがいいのか、ないほうがいいのか、どうしたらいいのか、悩みながらやっています。必ずしも答えはないと思うけれども、佐嘉神社の佐野宮司と話をさせていただく機会があるが、公園であれ、今日は検討する機会をいただきましたけれど、人が集まってくれたらいい。たくさんの人に来ていただきたい、学んでもらったり、心の拠り所になったり。先ほどお参りに行ったら長いこと手を合わせる方が居て、そういう方の心の拠り所なのかな。歴史もある意味心の拠り所でもあるし、経験でもある。そういう意味でお役に立つことが出来れば。県があって市があって、民間があって、もっと仲良くやろうと思ったこともある。色んなものが重なる。

今回嬉しいと思っているのが、その重なっている部分が上手く動線に乗っかって関わっている皆さんや地域の皆さん含めて、佐賀って良いよね、こんなことがあって良いよね、こんなことが出来て良いよね、と何かを皆さんと一緒に見つけることができたならこんな幸せなことではないと、大きな期待も持っています。そういう中で少しでもお役に立てることがあるのではないかと。ここまでやってきた甲斐が生まれてくるのではないかなと。神社もそうであると思うけれどやっぱり当該地域の中で営業している。営業を今みたいな時代をみなからどうやって成り立たせていくのか、そういう大きな悩みはあって、簡単な答えはない。ただ、やっぱりそこに地域の皆さんの心に向けてくださらないと、たぶん財布の口を開かないんだらうなど、その辺りの仕掛けを考えていただくのにも皆さんの知恵を拝借できると建設的になっていくのではないかと期待しています。

●牛島座長

ありがとうございました。まだまだあると思いますが、後ほどご発言いただきたいと思っています。

続きまして、佐嘉神社の佐野宮司にお願いしたいと思っています。

●佐野委員

佐嘉神社に参りましたのが平成19年、そして宮司を拜命しまだ一年半にならない、昨年4月からまだまだですけれど、よろしく願いいたします。松原公園については先代宮司もよく申しておりまして、公園にするのであれば我々も土地を提供しなければいけないということを常々申しておりました。私もそういった認識ではおります。しかし鍋島委員も言われたとおり公園計画の土地が現在、佐嘉神社収益事業として収入の一つという場所でもあります。そういったところは話し合いをしながら、そして出来る限りのことはさせていただきたい。皆様方からも色々としていただくことが出てこようかと思っていますので、よろしくお願いしたいと思っています。今まで正直なことを申しまして、佐嘉神社がこういった話を進めるのにネックになっていたのでは、と思うところもあります。我々が新しく変わらして、今、若い神職、巫女、職員一同新しい佐嘉神社を目指して頑張っておりますので、いろんな形で協力をさせていただければと思っています。

佐嘉神社の場所というのは、昔から松原神社がありました。そして佐嘉神社が新しくできたというものだけでなく、松原神社に祀られていた佐嘉神社の御祭神である第10代藩主直正公・第11代藩主直大公を、昭和天皇が直々に、この方々は特別に佐嘉神社としてお祀りしなさいと申されて出来たのが佐嘉神社であるということ。そして宮内庁が最初に神社を建築するに当たって、現在の大和町にある鍋島家の御墓所一帯を佐嘉神社の御用地として考えていたようですが、ぜひとも直正公はお城の近く、この場所にお祀りしてもらいたいと、佐賀市民が嘆願をされました。そこで、現在社殿のある貫通道路北側の土地を鍋島家から譲地頂く事になりましたが、昭和天皇がお創りになされる神社ということで戦前の社格で言うと別格官幣社、今で言う国立に当たる社になり、当時は社地が一万坪以上必要と定められていました。しかし、鍋島家からお譲りいただいた土地だけでは一万坪に足りないということで、さらにお堀を挟んだ今の駐車場まで合わせて全部鍋島家から譲地いただいて、何とか一万坪に達してこの場所に出来た。市民の声というか、この場所に佐嘉神社をお祀りしたいという強い思いがあったことを、我々が認識しながら神職一同頑張っていこうと申しているところです。そういうところも踏まえて頂いて、これからの松原公園一帯の整備を考えていただければと思います。

●牛島座長

ありがとうございました。天皇の別格官幣社というのは私も知ってはいましたが、多くの方の思い、特に市民の思いや土地の話など、大変興味深いものだと感じたところです。

続きまして、鍋島伝承遺産顕彰会の中尾代表世話人をお願いしたいと思います。歴史・文化は言うまでもなく、特に文化・芸術について深く広い造詣をお持ちです。

●中尾清一郎委員

これから人口減少社会になっていく中で、県庁所在地といえども郊外に住宅地が広がっていくことは余り考えられません。人口が減るのであれば、本来その文教機能が充実した町の中心部に人が集まって回帰したほうが何かと効率がよくて、行政もコンパクトシティを目指していくのは明らかな方向性だと思います。その点城下町は、町の文化的中核がお城の周りという明確なアイコンがありますので、これは策定しやすい。それに従って、県や市におかれても色々な構想をお持ちだと思うので、佐賀市の近い将来というのは、街なかを歩いて生活できる、文化の香りや歴史の雰囲気のあるまちづくりを目指している。これは多分、誰も異論がないことだと思う。

佐賀市中心部周辺で、いつごろ一番都市景観がよかったかを考えると、やはり直正公の銅像があって、徴古館が出来て、その裏の図書館もあって。ちょうど昭和10年ぐらいの写真を見せていただいたと思うが、あの時代の町の中心部が一番格調高かったと思う。それを再現するというのではなくて、それに近い形を目指しながら、現代的なまちづくりの中で、出来ること出来ないことをはっきりしていただきたいと願っております。歴代の佐賀市長にいつも申し上げているのは、県庁所在地で佐賀県より人口が少ないところで幾つか都市景観のすぐれた土地があります。ぜひ見ていただきたいのは、島根県の松江市です。あるいは城下町として見てほしいのは、山口県の萩を見てほしいと申し上げて、秀島市長も出張の折、萩を訪ねて同じ三十五万石の城下町でこうも城下町としての残り方が違うのかと、びっくりしたという言葉を得た。もちろん萩にも萩の事情があります。ですからそれを真似する必要はなく、これから佐賀の人たちは、まちなかに住むようになると、回帰していくという流れの中での議論になっていくと思っております。

●牛島座長

ありがとうございます。昔の良いところすばらしいところを大切にして、次を考えてみましょうというようなことだと私も感じました。続きまして、シアター・シエマ支配人重松さま。映画を通じて、人の心に灯をともしたいですか、そういうものを地道にされてきたと思いますので、別の視点があるかなと期待します。お願いします。

●重松委員

このお話いただいたときに、私は一番に思い浮かべたものがシエマは昔、東宝があって松竹があって佐嘉神社があって、という並びになるけれども、東宝があった場所にシアター・シエマがあって、松竹から佐嘉神社に入ったところに大きな楠の木があります。今年に入っ

てから中国映画で『春江水暖』という中国の大きな川の周辺で暮らす人を描いた映画があった。10分くらいのワンカットで川沿いに歩いている人たちを撮るシーンがあり、やっぱりそういった画は他にないので、そういった画を撮れるというのは中国の大きな土地と大自然と歴史で、ワンカットのシーンイメージが中国の墨絵をイメージして撮ったと言われていて、墨絵のある文化があってこそそのシーンだなと感じました。映画の中の川沿いにも木が生えて、象徴的な登場の仕方をする木があって、木の前で結婚式を挙げたり、お祈りを中国の人たちがする印象的なシーンがあって、その木のイメージを持ったまま、映画館の外に出たら、全然負けていない楠の木がこんなに近くにあったのかとびっくりして、それまでシエマで10年以上働いているけど全然気が付いていなかった。立派な楠の木だと思ったけれども、外のものを見て、すぐ近くのものを知ることにはあるのだなと、最近感じたので今日の席でお話を出来たらと思ってきました。それ以来、毎朝通るけれど、楠の木を見上げて仕事を頑張るぞと思ってシエマに行っていますが、今日は何度も心の拠り所というお話が出てきて、特別な場所というのを今日の話聞いて感じました。シアター・シエマが出来たのが14年前ですけどその頃を思い出すと松原川沿いは一番最初に印象に残った場所で河童の手を握ると水が出る橋があったり、みんな喜んでいて、それも心の拠り所だし、春になるとハナミズキの花がきれいなので、そういった意味でも生活の場所としても大切な場所と感じたと同時に夜は飲み屋街なので酔っぱらいの人が寝ていたりする。その印象があるから怖いと言う方がいて、私はシエマができた時に初めて佐賀に来たのでずっと佐賀に住んでいる方が、逆に怖いというイメージを持たれていることにもったいないと感じてしまいます。外から来た方に向けるという話もちろん大切だけれども、まずは佐賀に住んでいる方に良さを知っていただくことも大事なことと思っています。

●牛島座長

ありがとうございます。なかなかそばに居たら気付かないものですね。

次は佐賀大学全学教育機構中尾教授にお願いします。重松委員の話の中で、きっとグッとくるものがあつたのではないかなと思っております。地域の文化・歴史と文学について研究されていると聞いております。

●中尾友香梨委員

佐賀に来たのは12年くらい前で、佐賀大学に着任したのがきっかけです。初めて訪れた時は、小さなのどかな町という印象でした。後で遊びに来た友達を案内すると、「特に印象に残るものが何もないね」と言われたのを覚えております。その頃、私はすでに佐賀に住み着いて親しんでいた時期でしたので、友達に言われるまでほとんど意識したことがなかったのですが、言われてみたら確かにそうかもしれない、というのが正直な感想でした。

しかしその後、研究を進めていくうちに、知れば知るほど、実は佐賀はとても豊かなまちであるということが分かってきたのです。何より歴史と文化が豊かなまちです。しかしそれ

は外から来た人には見えないのです。ずっとそれを残念に思っていたので、この度のまちづくり懇話会のお話をいただいた時はとても嬉しくなりました。これでやっと佐賀の歴史と文化の見える化が始まるかもしれないと思ったからです。

それでは、ちょっと具体的な考えを述べさせていただきます。個人的に、佐賀の魅力の一つは、その豊かな歴史と文化、鍋島家の伝統と品格にあると思っています。江戸時代を通して鍋島家は諸大名のなかでも品格を重んじる御家でした。それはいろいろな面にあらわれています。せっかくこの地域を開発・整備するのであれば、まずこの土地がもつ歴史背景と伝統、及びその意義について十分に理解すべきであろうかと存じます。

鍋島家が深く関わっている地域でもありますし、歴史・文化がきちんと受け継がれている場所でもありますので、一つの方法として、個人的に頭に浮かんだのは、この地域全体を一つの大名庭園の中に落とし込むことが出来ないかということです。その大名庭園のモデルになり得ると思っているのは、佐賀城下にあった「観頤荘」という大名庭園です。元禄時代に出来た大名庭園で、日本三名園と言われる金沢の兼六園、岡山の後楽園、水戸の偕楽園と比べても全く遜色のない立派なものでした。江戸前期においては日本全土でも間違いなくトップレベルの大名庭園であったはずですが、それがあっという間に解体されて、幻の庭園になってしまいましたが、いくらか記録は残っているので、数年前に研究させていただきました。

庭園というと、どうしても枯山水のような静かな雰囲気のを思い浮かべがちですが、江戸時代の大名庭園は実に豊かで賑やかな場所でした。佐賀城下にあった観頤荘もそうですが、国内外の珍しい動物を飼育する動物園のような施設があったり、同じく国内外の珍しい鳥が鑑賞できる鳥小屋があったり、子供の遊び場まで備わっていたりして、まるで今日のテーマパークのような庭園でした。先ほど少しお話が出ていましたが、当該地域の皆さまは今後も当然この地域のなかで経済活動も生活も営んでいかなければなりません。地域全体を大名庭園の中にすっぽり落とし込んで、その中で商売も生活も成り立たせることが可能ではないかと、個人的には思った次第です。以上です。

●牛島座長

ありがとうございました。

観頤荘というのは、研究テーマでされているのは聞いておりましたが、なるほどと感じたところです。

続きまして、本日は田中委員の代理で来ていただいておりますが、佐賀県文化課の中島参事にご意見いただきたいと思えます。

●佐賀県文化課 中島参事（田中委員 代理）

文化課の前には、肥前さが幕末維新博覧会事務局で博覧会の開催に携わってきました。その時に知事からは、佐賀は何もないと言わないでほしいと言われたと聞いていて、その言葉

を聞いて頭を殴られたような、自分たちもそういう意識を変えていかないといけないと感じました。それから佐賀の七賢人をはじめ、佐賀には多くの偉人がいるし、多くの偉業も成し遂げられているというのが勉強していくうちにわかりました。今、学校でも郷土学習を推進されていると聞いていて、自分たちもこの事業に携わって地元の良さを改めて認識したこともあって、今日は松原公園周辺における懇話会ですけれど、この地域の良さをアピールできるような取組にして、賑わいができるようなまちにしていくことが出来たらと思います。松原地域だけではなく駅の南側は一体的なものだと思いますし、道を挟んで南側の城内周辺もあります。一体的なものと考えたほうが良いのかなど。個人的になりますが、今、県としては歩く施策の取組をしていますので、多くの人に歩いていただけるようなまちづくりが出来たらと思っています。また、賑わうまちづくりにはどうした方がいいのか、意見出しをしていかないといけないと思っています。

●牛島座長

確かに道で隔てられているかもしれませんが、一体で考えていくことが新たな創造につながると感じました。続きまして、佐賀県総務部から代理で資産活用課の馬場課長をお願いしたいと思います。この土地の活用を含めた部分があるかと思っています。よろしくお願いします。

●佐賀県資産活用課 馬場課長（元村委員 代理）

松原公園周辺の整備、将来像ということで参加させていただいておりますけれど、三十数年前に佐賀に来て、当時は佐嘉神社の横、松原マーケットは賑わっていた。昔の雰囲気や飲みに行ったりもしていました。そういう中で、今のこの姿を見ればマーケットの中は店も少なくなり寂しいと感じている。松原川沿いを毎日昼休みに散歩をしているが、川沿いの雰囲気が良い場所。先ほども少し紹介しましたが、くすかぜ広場を、今年度いっぱいを目途に整備したいと考えています。市民の人も含めて人が歩いていない。昔の商店街の賑わいと比べると寂しい限りだが、人が歩いて人の流れをつくって賑わいをつくっていくことをやっていきたい。くすかぜ広場が拠点・出発点になって、こころぎしのもり、サガテレビの JONAI SQUARE など、この城内一帯を人が歩いているような、そんなイメージになってくれたらと思います。そういう意味で将来の整備に関しては、こころぎしのもりや、くすかぜ広場、城内エリア、出来れば北側の商店街の賑わいの人流を作りながら、松原神社、佐嘉神社にも参拝する。そういう形で有機的に松原周辺の中に入って賑わいができる形になってくれたらと思っています。

●牛島座長

次は佐賀市副市長である白井委員をお願いしたいのですが、南北軸の話もありましたし、県との今後、色々あるかと思っています。よろしくお願いします。

●白井委員

私は松原川沿いを夜にうろつく側のおじさんで、怖いというよりもむしろ楽しい場所のように思っておりましたので、先ほどの重松委員さんのお話を聞いて、いろんな考えがあるんだなと思いました。佐賀市が何もないというのはよく言われることですが、実は何でもある。何でもありすぎて当たり前のようになっているからそのように言われるのではないかと考えています。食・文化・歴史、何でもあります。佐賀市は数年前に野村総研の都市ランキング調査で「都市の暮らしやすさ」では日本一になっています。住民は暮らしやすいと思っているけれど、外から見るとそれが見えないとおっしゃるのなら確かにそうかなと思います。地域によってこれしか目立った産品がないというところなどは、「うちの名産品はこれだ」と強くアピールしておられる地域もありますので、佐賀市も素晴らしいものは素晴らしいものとしてもっと上手くアピールをしていかなければならないと思っています。中でもこの松原エリアがなぜ素晴らしいところなのかというと、私はこれまで無意識にこのエリアは大事なところだと思ってきました。

さきほど休憩時間中に富田さんと話をしている目からうろこだったのは、お城の北は歴史的にも自然と発展するようになっているのだということでした。お城の南は昔はすぐ近くに海岸線があって一帯はもともと軟弱地盤だったと。また、当時は、江戸時代になりますが、地政学上、北からの攻めに備えるということもあり、北の方に守りを固めていくということが藩の考えとしてあって、そのことから、お堀の北に武家屋敷、町人の町、長崎街道、十間堀と順に配置した。このように北に向かって広がっていった結果、町人から見ると、お城の方角を眺めたらそこには松原エリアがあるわけで、当時からこの方角はずいぶんと大事なところという畏敬の念があったのではないかと。直茂公をお祀りする松原神社ができ、直正公・直大公を祀る佐嘉神社ができ、市民にとってはとても大事なところとなっていった。その後も鍋島直正公の銅像ができたり徴古館ができたりと、鍋島さんゆかりのこの地は市民誰もが自然とリスペクトしている場所となっていったと思います。このようにこのエリアは佐賀の人にとっては小さい頃から何かしら思い出に残る大切な場所となっていたのだと思う。ということは、佐賀市として、市民が一様に「ここはこんなに大事な、歴史があるエリアなのだ」ということを自慢気に語れるように応援することは行政としての務めなのではないかと思った次第です。今日の懇話会で皆さんから出していただいたご意見は、今佐賀市が具体的に何かをつくりたいから意見を求めているというわけではないですけど、この中で出てきた色んなご意見をそれぞれ感じてもらってそこから始まっていくことが、この懇話会がきっかけになるとすれば有難い。それをヒントとして、何かが始まるとすれば、市としてもできることを精一杯応援したいと思っていて、懇話会に期待しているところです。

●牛島座長

時間も迫ってきましたが、最後に私からも一言だけ発言させてください。

以前から感じたことで、佐賀は先ほど白井委員が言われていたように何でもある。一方で見えない人には何もないということがあるのですが、それとは別に何か足りないような気がすると感じました。私は、その一つがアイデンティティーというか、皆が共感する何かではないかという気がしています。今日はちょうど8月6日原爆の日。あれから76年ということで、広島はつらい歴史がありますが、平和の町ということで、広く世界に知られている。佐賀は何だろうと考えた時に、恐らくこの何かというのを、皆で良いところを含めて見つけて発見していくことではないかなと思っています。昔はあったけど今はないというものもあるかもしれません。このエリアは神社もあります。

佐嘉神社と松原神社、昔いただいた資料をたまたま見ているので紹介したいと思うのですが、佐賀は昔、精煉方で汽車や汽船の模型をつくってという話がありますけれど、ここに書いてあるのは、成功したのは安政2年8月7日。1日ずれています。暦も違うので正確には違うけれど、これを見て感動したのが大隈重信。大隈公が感動して、鉄道につながるということで、弘道館で学んでいた彼がここから活躍する一つの感動の場所だったかもしれないということで、私が感じて思っていることは、未来志向で、若い人・次の世代の何か思うところにならないかな、新しい磁場をつくるということが、このエリアに出来ないものかなと思っています。

時間が非常に限られていますが、こういう発見があったとか、話を聞きたいというのがあれば、意見をいただきたいと思います。

●鍋島委員

どの辺りがどうなったらいいかなと、個人的な目標的なイメージですけど、今、佐賀の中学生・高校生は電車に乗っていますから、今はコロナですけど初デートは博多に行くのかな。それをぜひ将来は松原エリアに、初めてのデートは松原でもらいたい。できれば初めてのキスも。帰りには神社でもお参りしてもらって、その辺りは宮崎駿の映画みたいな。どこか洒落たカフェで宮司さんお勧めのパフェでも食べて、思い出の品で、高校生で緞通は買えないかもしれないけれど佐賀錦でも更紗でも。どっちかが大人になって大学生になって、別れ別れになって、また松原で会おう、というような画で。本当だったら博多のチャペルで結婚したいけど、やっぱり佐嘉神社で結婚式を挙げようか、そんな子が1人でも2人でも育ってくれるような。宮崎駿のファンではないけれど、そういう景色というものが、我々の子どもたちにどれだけ文化の大切さ・素敵さ・生活の豊かさを与えてくれるのかという部分に、我々は見ている感動していると思う。自分たちの将来、子孫たちのためにそういうものを一気に出来ないと思う。生活の一部もそうだし、建物もそうだし、少しずつ重ねて、壊れたら直してまた新しくする。重ねて、つなげて積み重ねていくから初めてできる文化。ぜひ松原でファーストデートが目標で、皆さんに共感いただけたら嬉しいと思っています。

●牛島座長

ありがとうございます。ストーリーが生まれそうな予感がします。

●中尾友香梨委員

今の鍋島委員のお話にも、私も賛同します。これからは若者たちが訪れやすく、かつその土地の個性と文化が肌で感じられ、愛着を覚えるようなまちづくりを意識すべきであろうかと思えます。先ほどの私の話の補足ですが、江戸時代の大名庭園はまち一つ分。中にはさまざまな種類の茶屋があったり、実際にもものを販売するお店もあったりしました。観頤荘の場合、さすがに神社は無かったのですが、代わりに聖堂、つまり孔子廟がありました。他藩の大名庭園には神社もあったりしました。そういう意味でも、大名庭園をまち全体のバックグラウンドに据え、その中で商売、生活、さまざまな活動が営まれるようなまちを構想してもいいのかなど。そうすれば、この地域に生きる、または外から訪れる若者たちも、文化に触れつつ楽しむことが出来るのではと思いました。

●白井委員

市民が親しめる拠り所でもあり、また観光スポットみたいな、大切なランドマークになっていけばいいと思いました。

●牛島座長

今回は懇話会ということで、何か明確にいつまでにこういうものをつくりましょうということではないということで、取りまとめはしません。何かあればお願いしたいですが、なければまた次の場で事務局に整理していただいた上で、意見をいただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

進行がつかないものですから、なかなか皆さんの意見を引き出すことが出来ませんでした。時間になりましたので、意見交換につきましてはこれで終了したいと思います。皆さん協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

●事務局

今回いただいた意見などについて事務局で整理しまして、次回、何らかの形でお示しいと思っております。なお次回の会議ですけれども改めて日程調整をさせていただきますので、その際にご協力よろしくお願いたします。それでは本日はこれで終了いたします。長時間どうもありがとうございました。